平成 27 年度

視察研修報告書綴

研修日 平成 28 年 1 月 28 日 (木)

視察研修地 佐賀県伊万里市

研修日 平成 28 年 1 月 29 日 (金)

視察研修地 長崎県諫早市

基山町議会

議会運営委員会

基山町議会
議長 鳥飼勝美様

議会運営委員会
委員長 品川義則

行政視察報告

本委員会は、行政視察を行いましたので、下記のとおり報告します。

記

- 1 視察日程
平成28年1月28日（木）～1月29日（金）
- 2 視察先・目的
 - (1) 佐賀県伊万里市
 - ・議会改革について
 - (2) 長崎県諫早市
 - ・議会基本条例について
 - ・議会報告会について
- 3 視察内容
別紙報告書のとおり
- 4 視察参加者

委員長	品川義則
副委員長	松石信男
委員	重松一徳
委員	河野保久
委員	木村照夫
委員	久保山義明

議会運営委員会視察報告書

報告者品川義則

1 視察日程

平成28年1月28日（木）～29日（金）

2 視察先及び視察目的

（1）佐賀県伊万里市

議会改革の取り組み、議会定数見直しの経緯について

（2）長崎県諫早市

議会改革の取り組み、議会基本条例制定の経緯について

3 視察参加者

委員長 品川義則

副委員長 松石信男

委員 重松一徳

委員 河野保久

委員 木村照夫

委員 久保山義明

議長 鳥飼勝美

随 行 鶴田勝美（議会事務局長）

【1日目】1月28日（木）

佐賀県伊万里市

（1）人口56,297人（平成28年2月1日現在）

（2）世帯数22,799世帯（平成28年2月1日現在）

（3）面積255.28km²

（4）市の概要

伊万里市は、北部九州の西部に位置し、天然の良港伊万里湾を抱き、古くは「古伊万里」の積出港として、また、石炭産業全盛期は石炭の積出港として栄え、近年では伊万里湾総合開発を軸に大規模な臨海工業団地を造成し、造船、IC関連産業、木材関連産業等の集積により近代的な工業港として発展しています。また、「古伊万里文化」の香りが漂う焼き物などを市内の随所で見ることができ、四季折々に往時の面影がしのばれる。

『議会改革の取り組み』

(伊万里市役所庁舎内にて)

視察先対応者

伊万里市議会

議長 盛 泰子氏

議会運営委員長 草野 譲氏

副委員長 山口恭寿氏

1. 議会改革の取り組みについて

1) 現状

- ・議員定数 24 名
- ・3 常任委員会、議会運営委員会、2 特別委員会
- ・議員報酬 40.7 万円、政務活動費年間 25 万円
- ・費用弁償は交通費実費（37 円/km）のみ
- ・議会事務局職員公用車運転手を含め 7 人

2) これまでの改革・改善点

- ・昭和 51～ 一般質問のみ生中継と録画で 2 回放映。
- ・平成 7 年 『政治倫理条例』を議員提案で制定。
- ・平成 13 年 各種審議会・委員会への委員就任を基本的に辞退。農業委員の議会推薦枠も、民間人を推薦。
- ・平成 14 年 議員提案による『政務調査費の交付に関する条例』を制定し、報告書への領収書の添付と残余金の返還を義務付けた。
- ・平成 14 年 議員による議会だよりの編集、発行。
- ・平成 16 年 一般質問の一問一答制導入。
- ・平成 17 年閉会中の委員会開催日程の公開。

3) 定数、議員報酬、基本条例について

定数について

- ・平成 26 年区長会から定数削減を求める請願が提出されて、市民の意見を聞く時間がないという理由で一部採択となる。
- ・伊万里市を構成する 13 地区全てで意見交換会を実施、削減に賛成の意見が多かった。
- ・次回市議会選挙から 3 名削減し 21 名にする。

議員報酬について

- ・意見交換会では両論あった。
- ・削減すると若い世代の立候補が少なくなるのではとの意見があった。

議会基本条例について

- ・議論をこれから進めていく段階

4) これからの議会改革

- ・研修機会の確保・・・「議員の質」を担保するために必要なことは、議員・議会事務局職員の研修であると考え、議会は三谷哲央（三重県議会議員）高沖秀宜（三重県議会元事務局次長）等の講師を伊万里市に招き、費用は議長交際費等を当て後援会を実施して議員個々人的な質の向上を目指している。

また、事務局職員対象の研修を積極的に受けるように支持している。これからは他市町の議会と協働で講演会を開催できたら多くの研修ができるのではないかと考えている。

2. 主な質疑応答

Q：議会基本条例のモデルがありますか。

A：福島県会津若松市議会の基本条例を考えている。

Q：意見交換会を行った印象はどうでしたか。

A：女性、若い世代の参加者が少なかった。平日に行ったので土日に実施することも今後の課題だ。

Q：議会改革の今後の課題は何か。

A：議員間の意識モチベーションの持ち方、特別委員会を設置して協議するのか、全員協議会の場での協議、会派代表者の構成では一人会派の取り扱いなどがこれからの課題だと考える。

【2日目】1月29日（金）

長崎県諫早市

- (1) 人口138,072人（平成28年2月1日現在）
- (2) 世帯数52,864世帯（平成28年2月1日現在）
- (3) 面積341.83km²
- (4) 市の概要

長崎県のほぼ中央部に位置し、東は有明海、西は大村湾、南は橘湾と三方が海に面し、北は多良岳の秀峰を仰ぎ、4本の国道とJR、島原鉄道が交わる交通の要衝。平成17年3月1日 1市5町（諫早市、西彼杵郡多良見町、北高来郡森山町、同郡飯盛町、同郡高来町及び同郡小長井町）が合併して誕生した。合併後の諫早市の目指すべき将来の姿を描き、まちづくりの目標を明確にするとともに、今後の市勢振興の基本指針となる「諫早市総合計画」を平成18年3月に策定し、その実現に向けて取り組んでいる。

『議会改革の取り組み、議会基本条例制定の経緯』

（諫早市役所庁舎内）

視察対応者

諫早市議会

議会運営委委員長 並川和則氏

議会事務局 主査 石橋芳秋氏

1 議会改革の取り組みについて

《議会改革の取り組みの変遷》

(1) 議員政治倫理条例の制定（H21年4月1日施行）

- ・市が行う工事や契約、許可、認可、指定管理者の指定に関し、特定の個人・団体等を推薦し、紹介する等、これらの者に有利な取り計らいをするよう働きかけないこと。
- ・請負等に関しては、議員の配偶者、一親等以内の親族が役員をしている企業は請負契約を辞退すること。
- ・市から補助金等の交付を受ける社会福祉法人・学校法人・NPO法人等について、報酬を受ける役員に就任しないよう努めること。

- ・違反した場合は、文書による警告・出席停止・陳謝・辞職勧告がなされるなど。
- (2) 一般質問に一問一答制を導入（H22年3月定例会から実施）
- ・傍聴者や議会中継の視聴者が分かりやすいように、一般質問は出来る限り一問一答で行うよう努力すること。
 - ・通告書には「~について」で終わらず、具体的な内容を記載すること。
- (3) インターネットによる本会議の中継（H22年3月定例会から実施）
- ・本会議及び予算決算委員会全体会のインターネットによる生中継及び録画放送を実施（録画分は2期8年間分が視聴可能）
- (4) 予算決算常任委員会の設置（H22年3月定例会から実施）
- ・議案不可分の原則を順守する観点及び地方自治法の改正（複数の常任委員会への帰属が可能になったこと）を受けて、議長を除く議員で構成する予算決算常任委員会を設置。
 - ・全体会と分科会に区分（詳細審査等は常任委員会単位で構成する分科会が担当）し、重要事項は理事会で調整を図る。
- ※全体会での総括質疑のあり方が課題。
- (6) 諫早市議会基本条例の制定（H25年4月1日施行）
- ・平成23年6月定例会で設置された「議会改革推進特別委員会」で議論を重ね、制定に至る。当該条例を議会の最高規範とすることを明記。公開生・公平性・透明性を確保し、市民に信頼され市議会を根ざすこととしている。
- (5) 議会報告会「わがまちトーク」の実施（H26年2月から実施）
- ・第1回を平成26年2月4・5日、市内6会場で開催、479人の参加があった。広報宣伝、資料作成、進行、会場準備、片付けなど議員自身が自ら行うこととしている。（一回目は議会運営委員会、2回目以降は実行委員会が主体で運営を行う）。
 - ・開催後は報告書をまとめるとともに、市民からの提案等について執行部に連絡し対処法方針等を確認することとしている。
- (6) 議会のICT化「タブレット端末導入実証試験」を実施（H27年5月）
- ・議会や委員会で使用する議案書や議案資料などの書類及び本会議や委員会の会議録を議員や職員がタブレット端末で検索・閲覧できるようデータ化し、共有化を図る。ペーパーレス化にも貢献。
 - ・27年度予算で15台を契約、実証試験や操作練習を行い来年度の本格導入、28年度本格導入については、全員の個人所有（政策活動費対象）とし、6月議会から議会生中継をスマートフォン、タブレット端末での視聴を可能とした。

- (7) 議会改革度調査ランキングで県内市1位。(H27年5月)
- ・議会改革度調査2014で諫早市議会のランキングが県内13市中1位となった。全国では調査回答1503自治体中129位。2012年502位、2013年249位からの躍進。
- (8) 専門的知見の活用の実施(H27年9月)
- ・議会基本条例に定める議会及び議員の責務や議会改革への取り組み等に関して、より自己改革を行うため、自己評価だけではなく、第三者の客観的評価を求めることとし、専門的知見を活用した。(本市とまちづくり協定を結ぶウエスレヤン大学に委託)
- (9) 今後の検討課題
- ・従来市ホームページで公開してきた議会関係情報を、内容充実、一元化し、市民がパソコン、タブレット、スマートフォンなどから自由に閲覧できるようにする。(アプリケーションソフト「サイドブックスのちいき本棚」に定例会等の議案、議案資料、質問通告書、会期日程、委員会日程、請願、陳情、委員会報告、付議事件の結果等の議会情報を掲載)

2 主な質疑応答

- Q：議会報告会での提案に対しての対処はどうしているのか。
- A：回答できなかった提案については、議会でもとめ執行部に確認した後、ホームページに掲載する。
- Q：報告会の広報周知はどうしているのか。
- A：FM諫早、市報、回覧板、市の施設にポスター掲示の他議員がスーパー等でチラシを配っている。
- Q：議員間の自由討議はどのように行っているのか。
- A：委員会で議案等について執行部が説明して退席後、採決を行う前に議案等について自由に議員間で協議をしている。
- Q：委員会の自由討議中も傍聴は出来るのか。
- A：基本的に傍聴は出来ることにしている。
- Q：評価制度は毎年行うのか。その費用は議会費からなのか。外部評価は教授・学生のどちらが行うのか。
- A：自己評価は毎年行うが、外部評価は初めての試みなので今後の課題だ。経費10万円は議会予算を充てている。評価は教授に行ってもらおう。
- Q：タブレット端末が6月から使用されるが、議案、関係資料等を市民が閲覧できるのか。
- A：ホームページに掲載するので誰でも見る事が出来る。

所感

佐賀県初の女性議長盛泰子氏の議会改革に掛ける熱い思いは、市民の付託に応えたいということが原点であることに改めて気付かされた、以前は県下でも先進的な議会活動が行われていた伊万里市議会が、議会基本条例に取り組むのが遅かったというだけで、市民から議員定数削減の要求がでてしまうような事態に至ったのではなかろうか。議会改革も議員一人一人の思い、モチベーションが不可欠だ。

諫早市議会の活動は正に先進的であり、議会改革度調査ランキングで県内市1位も当然であろう。タブレット端末導入については基山町議会も導入を検討しているが、諫早市議会のように政務活動費を予算化していないので予算計上をどういう名目で上げるのか、しっかりとした意義と根拠、経費上のメリットを示すことが不可欠であろうが導入に向けて協議を進めるべきだと今回の視察で強く感じた。

基山町議会運営委員会視察報告

平成 28 年 3 月 30 日

松石信男

議会運営委員会は 1 月 28 日から一泊二日の日程で、佐賀県伊万里市議会と諫早市議会の視察をおこないました。視察結果は以下のとおりです。

1. 伊万里市議会視察について。

(1) 現状

- ・ 伊万里市：人口 5.6 万人 面積 255 平方キロメートル
- ・ 議員定数 24 名
- ・ 3 常任委員会、議会運営委員会、2 特別委員会
- ・ 議員報酬 40.7 万円 政務活動費 年間 25 万円
- ・ 費用弁償は交通費実費 (37 円 / 1 km) のみ。
- ・ 議会事務局職員 公用車運転手含め 7 人。

(2) 議員定数 3 名減に、経過と考え方について

区長会から定数削減を求める請願を一部採択し、伊万里市を構成する 13 地区全てで意見交換会を行った結果賛成が多数 (多いが 65.6%) を占め、次の選挙から 3 名減の 21 名に。定数については「削減ありき」ではなくて、定数の根拠について (ア) 類似団体 (武雄) との比較 (イ) 議会力、議員力の削減にならないこと (ウ) 常任委員会の人数を考慮 (1 常任委員会定数 8 名から 7 名に) (エ) 市財政 (オ) 面積などを参考にした。また、「議員は毎日何をしているのか」という市民の疑問があり、それに率直に答えられないことが定数、報酬に関係しているのではないかとの報告もあった。

(3) 議員報酬について

意見交換会でも両論あり、削減すると若い世代の立候補が少なくなるのでは?との意見も出された。

(4) 議会費の削減について

平成 17 年 4 月から費用弁償の廃止 (4,700 円 / 回)、行政視察予算の 5 千円カットしてきた。

※ (現在) 視察予算 常任委員会 11 万円、議会運営委員会 8 万円、特別委員会 3.4 万円 (議会バスを使用) 議会費人口一人当たり 5,300 円。

(5) 議会基本条例の制定について

先進地から来てもらい勉強会をひらいた。

(6) 議会報告会

報告会への参加が減少している中で、テーマ型の意見交換会を行っている。それが減少に歯止めをかけているのではないかとの見方も示された。

(7) 2 度と削減を求められない議会に、「学ぶ」研修機会の確保

議員の「質」を担保するために議員の研修機会の確保を図り、議員と議会事務局員の研修をしている。

★ 三谷哲央・三重県議会議員、高沖秀宣・三重県議会元事務局次長、目黒章三郎・会津若松市議会議員

2. 諫早市議会視察につて。

(1) 議会基本条例の制定について

平成23年6月議会で「議会改革推進特別委員会」を設置。1年半をかけて議論を重ね制定（千葉県流山市議会を参考に）。条例を議会の最高規範とすることを明記。公開制、公平性、透明性を確保し、市民に信頼される議会を目指すこととしている。また、条例の目的を達成するために検証を第1回は平成26年2月～6月、第2回は平成25年5月～6月に行い、結果を市民に公表している。制定をする前には市民との意見交換会を開いた。

(2) 議会報告会「わがまちトーク」の実施について

平成26年度から毎年実施、市内6会場に分け2日間で。参加者が第1回479人、第2回391人と減少している。第3回の報告会は報告会場を増やし、「人口減少、子育て支援について」のテーマを設けて2月に開催予定。

(3) 議員定数の見直しについて

合併後、行財政改革のために議員定数のあり方を検討、平成25年4月の改選から4人減の30人に。見直しに当たって全国の85の類似団体を調査したが全国平均定数が25人、報酬は諫早市議会は低かった。

(4) 議会のITC化、タブレット端末導入について

議会や委員会等で使用する議案書や議案資料、本会議や委員会の会議録の記録等を議員や職員がタブレットで検索・閲覧できるようにデータ化し、ペーパーレス化を図る。27年度予算で15台を契約、実証実験や操作練習を行い、28年度から本格導入する。タブレットは議員個人の所有とし通信費は政務調査費（毎月35,000円）を当てる。

(5) 議員間の議案についての自由討議について

執行部から議案についての説明を受けて、議員間で自由に討議して論点の整理をして採決の判断材料にしている。またその内容は議会だよりに掲載している。

(6) その他の課題について

- ・ 反問権については市長が1度だけしたが、「後で答えます」ということで対応しているが、「反問権とは何か」きちんと決めていない。
- ・ 議会からの政策提案については先進地（鎌倉市議会）を視察し、今後検討する。

議会運営委員会委員 重松 一徳

議会運営委員会行政視察報告

議会運営委員会は平成 28 年 1 月 28 日、29 日に行政視察をおこないましたので、その内容、及び所感について報告いたします。

記

伊万里市議会の行政視察について

1. 定数について

伊万里市議会は、平成 27 年に区長会から定数削減を求める請願が出され、伊万里市を構成する 13 地区すべてで意見交換会をおこない、判断基準を設定している。

その結果、現定数 24 名を次回選挙から 21 名へ、3 名減を決定した。

3 名減の根拠は、3 常任委員会から各 1 名減らすことによる議会運営への影響を極力少なくする定数の考え方による。

基山町議会は定数削減をおこなうきっかけは、財政上の問題が発端になった。基金が枯渇するとの町長発言（平成 17 年）を受け、町執行部 3 役の報酬削減、審議会等の報酬見直し等を進めてきた。町議会は第 1 次議会改革で定数を 16 名から 14 名に削減、配布物の見直し等をおこなった。そして第 2 次、第 3 次議会改革と進めて 12 月議会で第 4 次議会改革特別委員会を設置した。

伊万里市議会は定数を削減したことにより、若い世代の立候補が少なくなるのでは？と危惧されている。これは基山町議会にも当てはまり、去年の町議会選挙では無投票になった。議会の果たすべき役割が町民生活に直結していない事、議会活動がオープンになっていない事、議員活動が日頃町民に見えない事、そして報酬に魅力がない事等が、立候補が少ない原因かもしれない。

基山町議会は議会報告会を年に 1 回、試験的におこなっているが、議員定数と報酬について再度町民の声を聞くべきと思っている。

2. 議会基本条例について

伊万里市議会も議会基本条例制定は今後の課題ということで、先進自治体を視察されている。伊万里市議会が視察された自治体は会津若松市議会ということ。

伊万里市議会議長は任期が 2 年になり、残り 1 年では無理なので筋道をつけたいとの事。

基山町議会も第 4 次議会改革の中で、議会基本条例の制定をするべきと思う。

特に、第 2 次・第 3 次議会改革をおこなう中で実践してきた議会運営を明文化することが必要になる。その策定にあたって町民代表や次世代を担う若者の声をいかに取り入れていくのが重要になり、是非提起していきたい。

諫早市議会の行政視察について

1. 議会改革について

諫早市議会の議会改革は平成 17 年に旧諫早市と周辺 5 つの町が合併したのを機に進めら

れている。

平成 21 年に諫早市議会議員政治倫理条例の制定を皮切りに、一般質問に一問一答方式の導入、インターネットによる本会議の中継、常任委員会の見直し、議員定数の見直し、費用弁旅費の見直し、賛否表の公表、そして平成 25 年に諫早市議会基本条例を制定されている。

基山町議会改革も、まず出来る改革を進める中で、それを明文化していく基本条例の制定を目指しているので諫早市議会の改革は大変参考になる。

諫早市議会が議会基本条例制定で参考にした議会は千葉県流山市議会ということだった。基山町議会はまだそこまでの準備はしていないし、議論もしていない。他市町議会の基本条例を参考にするのはなく、独自の発想を持ってないのかを議論する必要がある。

そもそも、何故議会基本条例が必要なのか？から議論をしなくてはならない。

諫早市議会基本条例は議会の最高規範を明記し、公開性・公平性・透明性を確保している。基山町議会が議会基本条例を制定する場合、この 3 原則は必ず確保しなければならない。

何を規定していくのかは今後の課題だが、反問権の付与は必要と思っている。そうすることにより議会と首長及び町執行部との 2 元代表制としての議論の保証が確立すると思う。

2. 議会報告会について

諫早市議会の議会報告会「わがまちトーク」は平成 26 年 2 月から実施されている。市内 6 会場を 2 日間、年 2 回を原則として実施されているが運営マニュアルで規定されている。議員 30 名を 3 班に分け、班ごとに役割分担を決めて事前準備・当日の運営及び事後整理もすべて議員自ら行われている。

報告内容は幹事会で決定され、各会場で共通した資料作成をされている。

基山町議会も試験的に 3 年前から年 1 回の議会報告会「きやまん議会と語ろう」をおこなっているが、運営マニュアルがないためにその都度開催方法を議論している。

出来るだけ早く運営マニュアルか報告会開催要綱を策定していかなければならない。

3. 議会の ICT 化「タブレット端末導入」について

諫早市議会は平成 27 年 5 月から試験的に 15 台を契約導入し、平成 28 年度から本格導入が検討されている。

ペーパーレス化による省力・効率化と情報開示や市民の参加機会の拡大・関心の向上を目的とされている。

基山町議会も導入の検討を始めたばかりだが、経費節減になるのか？議会事務の効率化・省力化が進むのか？個人使用と議会での使用の分別ができるのか？導入にあたっての経費は？等々の問題点を明らかにする中で町執行部と共通認識を持たなければならない。

タブレット導入は町民の理解も必要にある。急ぐ必要はないかもしれない。

以上

平成 27 年度議会運営委員会行政視察報告書

議会運営委員会
委員 河野保久

■ 日程及び視察先

平成 28 年 1 月 28 日（木） 伊万里市 議会改革について

～

平成 28 年 1 月 29 日（金） 諫早市 議会基本条例について
議会報告会について

I、はじめに

議会運営委員としての視察研修は、はじめてであり、基山町の取り組んでいる議会改革が、ほかの議会と比較してどうであるのかを検証することが今回の視察研修の大きな目的である。

以下、視察の概要については委員長の報告に委ねることとし、所感を述べて研修報告といたしたい。

II、所感

1、伊万里市視察研修での所感

(1) 議会改革について

①市議会の近年の改革・改善点が議会のホームページに掲載されている。

議会の改革・改善点が時系列に整理され、市民に分かりやすく公表されている。基山町でも検討してみる必要があると感じた。

②「議員定数の見直し」をテーマにして、意見交換会を実施したことは、論点を絞り生の声を聞くという議会の姿勢が示されており、素晴らしいことだと思った。

その問いかけも「削減についてどう思うか」でなく「定数についてどう考えているか」としていることは参考になった。

③議員報酬については意見交換会でも両論があったとのこと。定数と異なり、理論の裏付けが明確にしづらいことが原因である点は、どの自治体でも同じであるのだなと感じた。

④議会改革のこれからについて、「議員の学び」を確保することを一番に挙げている点は、盛議長らしさが出ているなと思った。

「二度と削減を求められない議会に！」という決意は半端でなく、議会改革には議長のリーダーシップが必須であると感じた。

(2) その他

①「議会だより」に賛否表がない理由が、議決が賛成「○」ばかりで反対「×」がなかったのも一因であったとの話は、なるほどと思う反面、驚きもした。掲載するのが当然と思っていた私自身にとっていろいろと考えさせられた。

②「議会バス」を所有している。市議会であるから当然の事なのだろうか。私には理解し難い事であ

る。

2、諫早市視察研修での所感

(1) 議会基本条例について

- ① 制定にあたって議会改革特別委員会に小委員会を設置し、1年6か月の時間をかけ16回の小委員会を開催したという経緯は参考になった。
- ② 制定するにあたって、住民にパブリックコメントを求め意見交換会を実施している。議会側の住民への周知に対する熱意が感じられた。
- ③ 制定後、条例に規定する議会及び議員としての責務が達成されているかの検証を行っている。頻度は別にして、制定後は当議会でも実施しなければと感じた。

(2) 議会報告会について

- ① 若い世代、女性の参画促進のため、その世代にあったテーマ（例：子育て支援について等）を設定し、開催している点は参考にすべきと思う。
- ② 報告会の運営マニュアルを作成していたが、その必要性は感じられなかった。

(3) その他

- ① 議会へのタブレット導入を28年度から本格的に実施するとの事であるが、実施した後に議員に直接話を聞いてみたいと感じた。
- ② 議会改革の取り組みに「改革度調査ランキングで県内1位」と書かれていた。改革に取り組んでの結果でありわざわざ取り組みとして記載されているのには、違和感を覚えた。
- ③ 事務局の方のみの説明だけであったの不満足。
議員の声が聴きたかった。また次回は町村議会に対する視察が出来ればと思う。

III、結びとして

議会改革の取り組みについては、当議会も頑張っているかと再確認した。
これをどう「議会基本条例」という形で住民に対して「可視化」していくか、議員一体となって議論していかねばと思う。

以上

平成28年2月8日

委員
木村照夫

議会運営委員会視察報告書

1. 研修目的と課題

議会改革、議会基本条例、議会報告会のありかたについて先進地の視察を行った。基山町議会が開かれた議会を目指しているが、何が不足しているのか課題を見つける研修であった。

2. 視察日 平成27年1月28日(木)～1月29日(金)

3. 視察地 (1) 佐賀県伊万里市議会
(2) 長崎県諫早市議会

4. 研修項目と今後の議会改善策について

(1) 佐賀県伊万里市議会

①研修項目「議会改革について」

ア 議員定数について

1 昨年、区長会から定数削減を求める請願があった。議会では一部採択で、理由は市民の意見を聞く時間がないため現状維持の定員であった。

その後伊万里市を構成する13地区全てで意見交換会を行った。現在の議員定数24名を21名に次期の選挙から削減することが決定された。

イ 議員報酬について

議員報酬は月額40.7万円・政務活動費年間25万円である。意見交換会においても両論あり、削減すると若い世代の立候補が少なくなることが懸念され現状維持であるとの説明を受けた。

ウ 議会費の削減について

平成7年4月に委員会出席の費用弁償(約5千円/回)廃止・行政視察の5千円カットも行った。現在の視察予算は常任委員会で11万円、議会運営委員会8万円、特別委員会3.4万円である。

エ 伊万里市議会は今後どう進めるかについて

・「学ぶ」、研修機会の確保をやっていく。

今後地方議員は削減の方向であり「質」を担保するために議員・議会事務局職員の研修が必要である。

・二度と市民から定数削減を求められない議会を目指していく。

② 所感及び議会改善策

- ア 基山町の議員定数問題及び議員報酬については、まずは町民の地域代表である区長会へのアンケートをとる必要性があるとも感じる。議会特別委員会等で議論すべき重要な課題である。
- イ 「学ぶ」、研修機会の確保をやっていく。福岡市内では各種のセミナーが開催されている。基山町は福岡市にも近く研修しやすい地域的環境がある。議会改革のセミナーに議員及び議会事務局員は積極的に研修会に参加すべきと感じる。
- ウ 伊万里市議会議長は一人会派で女性の議長である。議会改革に没頭されている。孤独であると思うが仕事に奮闘してほしいと願っている。

(2) 長崎県諫早市議会

① 諫早市議会基本条例制定について

- ア 平成 23 年 6 月定例会で設置された「議会改革推進特別委員会」で議論を重ね、制定に至る。当該条例を議会の最高規範とすることを明記。公開性・公正性・透明性を確保し、市民に信頼される議会を目指している。平成 24 年 12 月 5 日制定、平成 25 年 4 月 10 日施行された。
- イ 概要は定例会の回数及び議員定数（定数条例及び定例会の回数を定める条例を廃止）、自由討議の促進、議会報告会の開催、反問権の付与、市総合計画の議決事件の追加、議会審議における着眼点、委員会の原則公開、議員研修の充実化、議会広報・広報の充実、専門的知見の活用、議会事務局の充実、政務活動費の適正執行など規定されている。

② 所感及び議会改善策

議会基本条例のできるまでのセミナー及び各市町の議会基本条例を策定された先進地の視察をさせていただいた。

基山町議会も一問一答制、議会報告会の実施、ユーチューブによる議会中継も実施している。議会改革特別委員会委員長を拝命している私としては、「形より入り心に至る」の精神で、議会改革、基山町議会基本条例の制定に努力していきたい。

以上

日 時：2016年1月28日（木）～1月29日（金）

内 容：議会運営委員会 行政視察報告

行 先：佐賀県伊万里市・長崎県諫早市

議員名：久保山 義明

○ 各市における概要は委員長報告に準ずる

○ 視察内容と所感

- ・議会改革について（佐賀県伊万里市）
- ・議会基本条例について（長崎県諫早市）

今回、視察の目的として議会基本条例制定に向けて基山町議会としてどう捉え、どのように動いていくのかが焦点となった視察研修となった。

佐賀県伊万里市

● 議会基本条例について・議会報告会について

概要は、委員長報告に準ずる。

所感：伊万里市議会は現段階において議会基本条例が未制定でありながら、議長の基本条例に対する熱い想いを聞くことが中心となった。

そのなかで、まず議会運営委員会8名に議長より制定に向けての諮問をおこなっているということであったが、議長任期が2年というスパンで果たして制定に向けて可能なのかという質問をおこなったが、まず制定するんだという想いと取りかかりを任期中に果たしたいということであった。

議長自身の基本条例のモデル自治体はあるのかという質問に対しては、会津若松市が理想であるという答えをいただいた。

また、基本条例に対する考え方を共有するために広瀬克也氏を招聘し勉強会をおこない、今後も議長の政務活動費を活用し専門家の招聘ができないかを検討しているとの報告があった

所感としては、議員相互の基本条例に対する熱意への温度差が気になったが、リーダーシップを取っていくんだという議長の思いも同時に伝わった。

長崎県諫早市

● 議会基本条例について・議会報告会について

概要は、委員長報告に準ずる。

所感：諫早市議会は、16回にわたる小委員会を設け議会基本条例を制定されている。また、印象的だったのは基本条例の実施状況をシートに作成し、すべての条項にABCDの評価項目を設けていることである。さらに、有識者の活用から地元諫早市にある長崎ウエレスヤン大学経済政策学科に10万円の委託料で第三者評価を実施中。年度末には報告書ができあがる予定とのことであった。

また、基本、理想とする基本条例制定自治体は流山市であり、二元代表制の役割、機能の強化、開かれた議会の３点を重要課題とした。ただし、議会基本条例そのものが市民に興味がないことが課題であるとのこと。

議会報告はまもなく３回目を開催予定で、次回は子育て支援等のテーマを持って開催するとの報告があった。過去の例を見てみると回答保留となった質疑等や意見要望書について報告書が作成しており、基山町議会においても参考となる様式であった。また、報告会のPRに議員自らFMやケーブルテレビ、スーパーでのポスター貼りなど積極的に動かれていた。

機能強化については、議会図書室の市民開放もあるがまだ利用はほとんどないということであった。実際に見学させていただいたが議会に関する月刊誌や話題の書籍等もあり基山町議会としても図書の充実は必須ではないかと感じた。

中核都市ということもあるだろうが、やはり議会そのものの機能が充実しており、政務活動費によるタブレット導入も検討しているということであった。

２市の視察を受けて、基山町議会としてまず取り組むべき事項が明確となりまた、今回事務局長が同行したことによる情報の共有も感じられた。